# 1. 基本計画策定の趣旨

大熊町の新たな社会教育複合施設は、**大熊町に関わるすべての人**の主体的な考えや行動を支え、未来を担う人づくりをめざします。**「読書の町 おおくま」の精神**を承継し、**誰もが生涯学び続ける**こと、**主体的に学び合う**ことができる生涯学習環境を整えます。地域交流や多文化交流を促進し、震災を教訓とした**ゼロカーボン宣言の町**として放射線・防災・環境教育を展開し、大熊町の歴史や震災・原子力災害を伝承し、問題に直面した際、従来の慣習に囚われず新しく有意義な着想を生み出す思考力を育む、**体験と出会いと交流**の場、**多様な学び**の場をめざします。

この本計画では、上記趣旨の実現にむけて必要な考え方を整理し、検証や検討などを取りまとめ、今後の課題を明確にし、速やかに基本設計・実施設計に移行することを計ります。

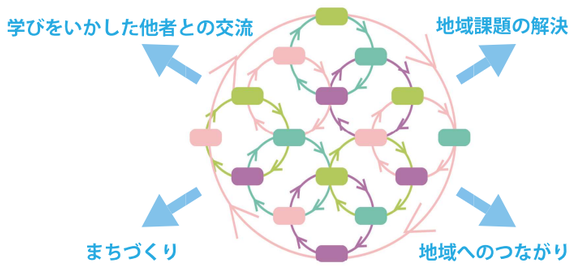
# 2. 基本計画策定の背景

基本構想（R5.6）では、居住地や住民票の有無にかかわらず「大熊」に関心を持つすべての人々を新たな社会教育複合施設の利用者とし、博物館・図書館・公民館の３施設の単なる「同居」ではなく**３機能が「融合」**され人々が集い交わり活動する場であるとしています。人々が大熊を知り、共有し、それぞれの暮らしやまちづくりに活かすことができるように、利用者と共に複合施設が大熊の記憶を集め、過去の記憶とともに現在・未来の町民につなげていくことができるように、基本構想には以下の５つの活動方針が掲げられています。

① 大熊での学びを支える資料や情報を大切にする
② 先人が積み重ねた知識に学び、わたしたちの経験を共有する
③ 他人を尊重し、仲間をつくる
④ わたしたちの生活や暮らす地域を豊かにするための一歩を踏み出す
⑤ 一人でいても誰かと一緒でもいい、みんなの居場所をつくる

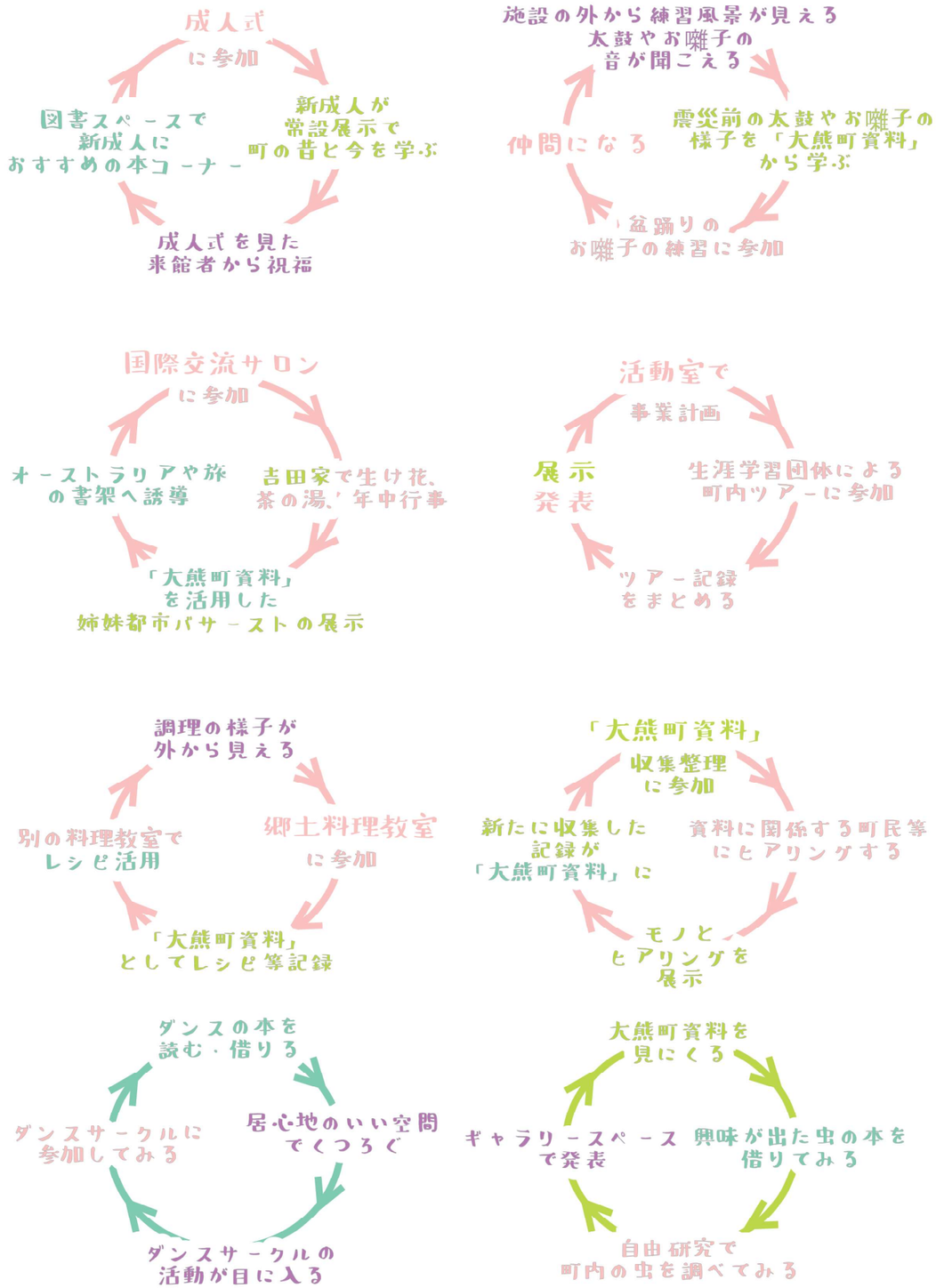
# 3. ３機能の融合のイメージ

**３機能の「融合」**により、本から文化財まで資料に多様性と厚みが増します。講座やイベントなど事業にも多様性が生まれます。公民館・図書館・博物館の活動と、特定の使い方が決められていない**余白の空間が隣り合う**ことで、予期せぬ人や資料、活動にめぐりあうことも期待できます。３つの社会教育機能を活かし、大熊を学び、つなぐための事業や活動の充実が「融合」の主な狙いです。




それぞれの活動がめぐるイメージ

# 4. 活動のイメージ



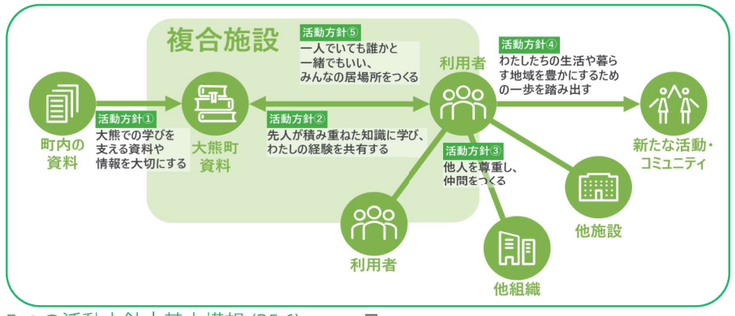

活動の具体的イメージ

## 5. ５つの活動方針と全３回ワークショップから生まれた新たな「バ」

| | 共通 | 図書館 | 博物館 | 公民館 | 施設外 |
|---|---|---|---|---|---|
| マナビバ | ●興味を持つきっかけとなる場所*<br>●大熊のことを学ぶ* | ●勉強できる場所（調べものとかできる）<br>●震災について、楽しみながら学べる*<br>●図書館で新聞を読む机があると嬉しい<br>●防災の取組み、技術を知りたい*<br>●昔の大熊に関わる新聞を読みたい | ●大熊町の現状をまとめて理解できる、説明できる*<br>●見る、聞くでなく、”体験”する学びの場*<br>●大熊町を学ぶメタバース、VR、ゲーム* | ●ＨＰ、社会インフラの玄関・窓口（動線）<br>●すごく気軽に参加できる料理教室* | ●●フィールドワーク型町内施設（史跡）<br>●●大熊の歴史散歩をできたらいい（トロッコ道、ため池）<br>●●中屋敷区を案内してほしい（ツアー）<br>●●山城歩き<br>●日隠山に登りたい |
| ミセバ | ●世界に向けた情報発信* | | | ●人形劇<br>●サークル活動　バドミントンクラブ<br>●それぞれの発表会、展示会<br>●フリースペースな展示施設<br>●●民俗芸能の発表会 | ●みんなが自由に使える畑 or 植物工場があったらいい |
| ツクリバ | ●●場所の記憶、聞き取り調査<br>●●新・記憶の街のワークショップ<br>●●震災前の大熊町の好きなところ・嫌いなところをインタビューし、ランキングする。その結果を活かしてワークショップやアート作品、書籍に展開。* | ●●図書、古文書等資料（アーカイブ）*<br>●●大熊町に関する新聞、記事の展示会<br>●●大熊町に関する本の展示会<br>●●古写真の展示会<br>●●ラジオブースで公開収録ができたらいい<br>●集めた本を飾れる本棚ができたらいい<br>●小さな子（０～３歳）へのおはなし会ができたらいい<br>●よみきかせ | ●●語り部（体験）<br>●●震災前の町の状況を伝える資料の収集、展示できない資料もいつか役に立つかもしれない*<br>●●災害の経験を次世代に伝え、同じことを繰り返さない仕組み<br>●●東北、福島、大熊の歴史を知りたい*<br>●大熊のことについて学べるツアー（移住の希望有無関係なしに）*<br>●●大熊町の石の文化財の展示会<br>●大熊のイチゴやお酒をお試しできる場所（商業施設につなげる）<br>●ダンス<br>●アートの設置<br>●アーティストに来てほしい* | ●各地区でスポーツ対抗ができたらいい<br>●大熊オリジナルのゆるスポーツがつくれたらいい*<br>●野菜を作る、野菜をもらえる（買える） | ●お花見とお酒（坂下ダム）<br>駅前（駅前はない）<br>●ペット（犬）と一日中遊べる場所 |
| タマリバ | ●●共通の好きを持つ人とつながることができる<br>●●対話の会*<br>●●大学生向けのインターン、長期バイト<br>●●公園にベンチが置いてあると嬉しい<br>●●一人でも行ける空間<br>●●居場所になる（長時間滞在できる）場所がほしい | ●●図書館で呑みながら、読書会、おしゃべりができたらいい！<br>●●本を読みながら、ゆっくりコーヒー飲みたい<br>●●親は休めて子は遊べる<br>●●集中して仕事や勉強できる場所がほしい<br>●●漫画が多い図書館<br>●●本屋さんにはない本を読める<br>●●一日中時間を使える場所（マンガを読む）<br>●●昔のような普通のこと、図書館で新聞を読む、ボーっとしている<br>●●図書館で座りながら本を読みたい | ●●歴史・文化財アーカイブ（大熊町小学校、駅前の玄関先）*<br>●●震災で避難して経験した困ったこと、嬉しかったことを伝えるアーカイブ*<br>●アーティスト（漫画家、小説家）を育てたい<br>●●地元の方のお話を聞ける機会がほしい*<br>●”夜の博物館”ナイトミュージアムを体験できたらいい<br>●コンサートや大型イベントの開催 | ●●サロン、たまり場（カフェ、ギャラリー、セレクトショップ）<br>●●衣類、本、食品（乾物や調味料）のリサイクル<br>●●みんなの食卓*<br>●●町民来訪者の交流（イベント催し物、従事）と学び場<br>●●日本中から知り合いの経営者を集めたイベントをしたい<br>●●大熊町と関する国と県、自治体との交流会 | ●小さな子が（じぃばぁ）静かに遊べることができたらいい<br>●公園でのんびりする、子供が遊べる<br>●遊んでいたら知らないうちに勉強ができるようになっている<br>●世界中のおいしいものを１か所で食べたい<br>●ビックルボール（ニュースポーツ）の世界大会を開催したい<br>●うたいたい！ |
| アソビバ | ●一晩中遊べる場所がほしい | | | | |

■凡例
●マナビバ
●ミセバ ―― ●ノコシバ
●ツクリバ
●タマリバ ―― ●カタリバ
　　●イコイバ
●アソビバ
* 情報環境

ワークショップで出されたたくさんの「できたらいいこと」の整理




５つの活動方針｜基本構想 (R5.6)

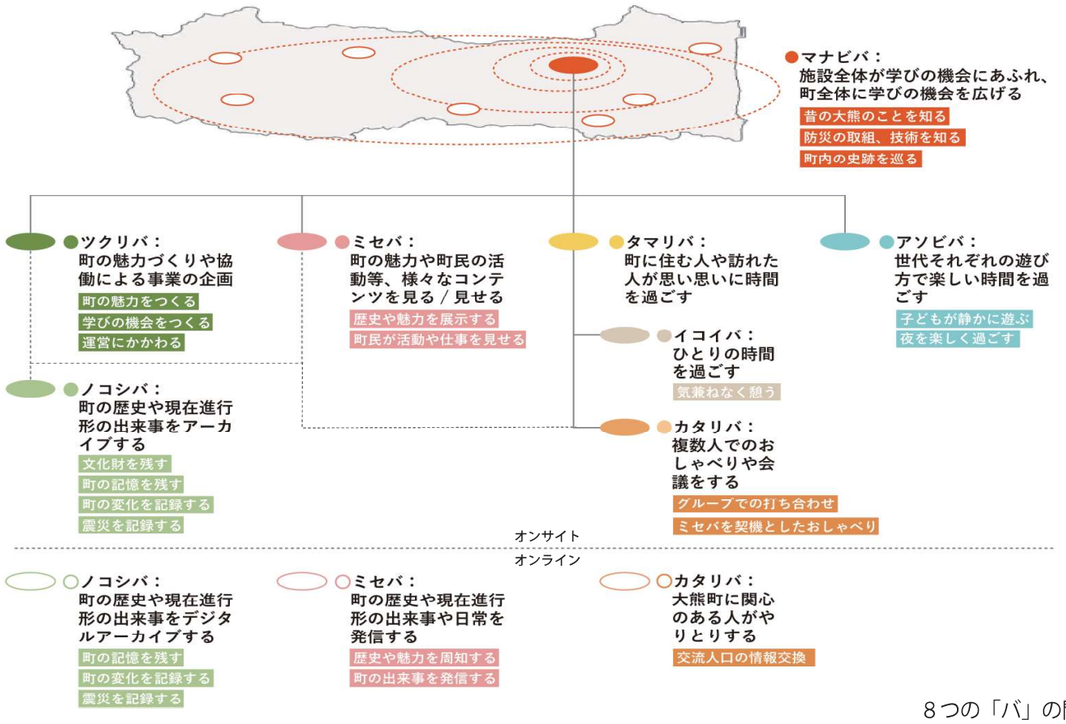
５つのバ｜技術提案書 (R5.10)

- ●マナビバ：施設全体が学びの機会にあふれ、町全体に学びの機会がを広げる
- ●ミセバ：町の魅力や町民の活動等、様々なコンテンツを見る / 見せる
- ●タマリバ：町に住む人や訪れた人が思い思いに時間を過ごす
- ●イコイバ：ひとりの時間を過ごす
- ●ノコシバ：町の歴史や現在進行形の出来事をアーカイブする
- ●アソビバ：世代それぞれの遊び方で楽しい時間を過ごす
- ●カタリバ：複数人でおしゃべりや会議をする
- ●ツクリバ：町の魅力づくりや協働による事業の企画

ワークショップで生まれた新たな「バ」(R6.6)

## 6. たくさんの「できたらいいこと」のアイデアから生まれた８つの「バ」

施設全体、ひいては町全体を**「マナビバ」**と位置付けます。**「ツクリバ」**では町の魅力づくりや協働による事業の企画が行われます。町の歴史や現在進行形の出来事をアーカイブする**「ノコシバ」**と関連づけることができます。**「ミセバ」**は町の魅力や人々の活動など様々なコンテンツを見たり見せたりするところです。「ノコシバ」と連動することで現在進行形の活動を未来の資料として残すこともできます。**「タマリバ」**は一人の時間を過ごす**「イコイバ」**と複数人でのおしゃべりや会議をする**「カタリバ」**にわける事ができます。「ミセバ」と「カタリバ」は関連づけて使われることも想定されます。**「アソビバ」**は世代それぞれの遊び方で楽しい時間を過ごせるところです。



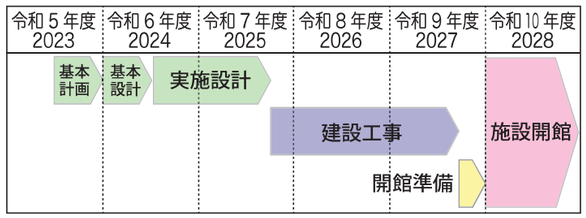

８つの「バ」の関係図

## 7. 基本構想以降の検討事項

**■全体規模**｜多様な各機能の充実を図るため基本計画では 6,000 ㎡とし引き続き検証を継続します。

**■IC タグ**｜館内どこでも本を持ち歩ける IC タグと BDS の導入を検討します。自動貸出機や予約本取置きシステムなども併用し、**窓口業務の省力化、利用者サービスの充実**を図ります。

**■ZEB**｜地中熱や風、太陽光などの自然エネルギーを活用し、ランニングコストの削減をはかり、**nearly ZEB 以上の環境性能**をめざします。

## 8. 今後のスケジュール

令和 6 年 9 月に基本設計、令和 7 年 12 月に実施設計を完了させ、令和 10 年度の複合施設開館を想定しています。昨今の建設コスト高騰を配慮しながら引き続き建築設計、資料情報整備計画、管理運営方針策定などを進めます。